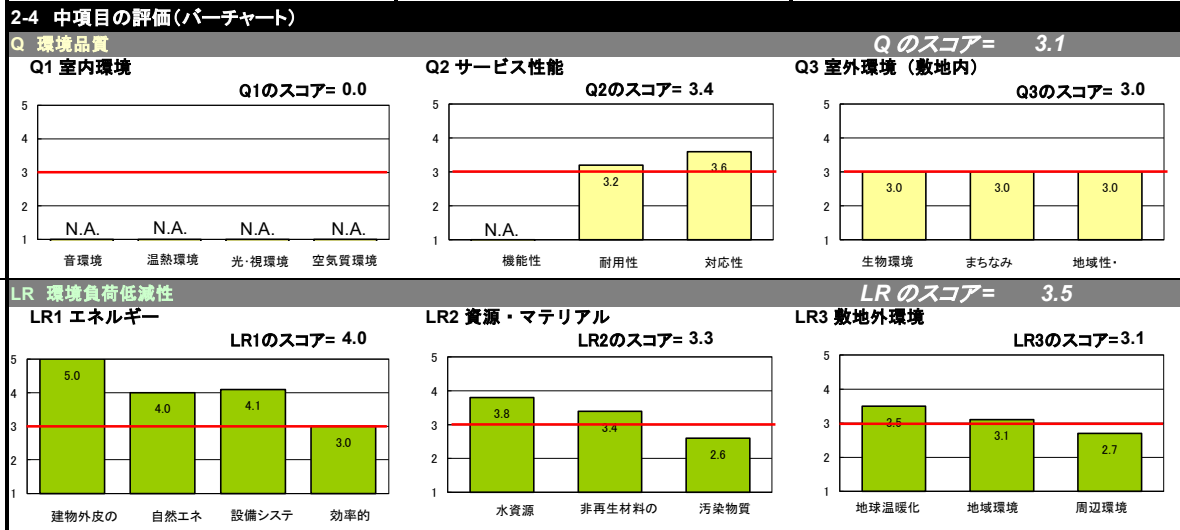
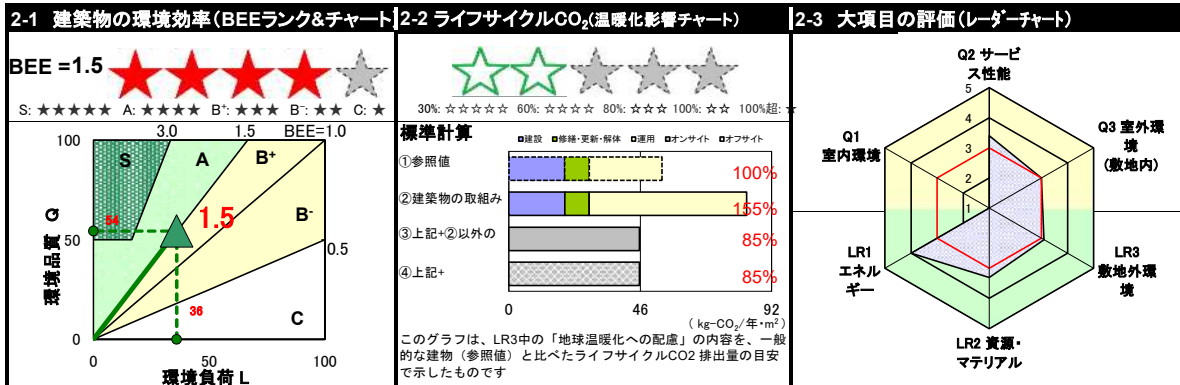


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)内浜化成 豊田福受工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊田市福受町中ノ切56番 始め45番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	150 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,400 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年12月15日
敷地面積	36,987 m ²	作成者	福井 俊介
建築面積	14,039 m ²	確認日	2025年1月31日
延床面積	16,503 m ²	確認者	坪井 仁志



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.5	3.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	47.8 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.3	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)内浜化成 豊田福受工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
配慮項目		独自基準	重点項目				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数								
Q 建築物の環境品質															3.1					
Q1 室内環境																				
1 音環境																				
1.1 室内騒音レベル																				
1.2 遮音																				
1 開口部遮音性能																				
2 界壁遮音性能															3.0					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															3.0					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															3.0					
1.3 吸音															3.0					
2 温熱環境																				
2.1 室温制御																				
1 室温															3.0					
2 外皮性能															3.0					
3 ゾーン別制御性															3.0					
2.2 湿度制御															3.0					
2.3 空調方式															3.0					
3 光・視環境																				
3.1 昼光利用																				
1 昼光率															3.0					
2 方位別開口															3.0					
3 昼光利用設備															3.0					
3.2 グレア対策																				
1 昼光制御															5.0					
3.3 照度															3.0					
3.4 照明制御															3.0					
4 空気質環境																				
4.1 発生源対策																				
1 化学汚染物質															3.0					
4.2 換気																				
1 換気量															3.0					
2 自然換気性能															3.0					
3 取り入れ外気への配慮															3.0					
4.3 運用管理																				
1 CO ₂ の監視															3.0					
2 喫煙の制御															3.0					
Q2 サービス性能															0.43		3.4			
1 機能性																				
1.1 機能性・使いやすさ																				
1 広さ・収納性															3.0					
2 高度情報通信設備対応															3.0					
3 バリアフリー計画															3.0					
1.2 心理性・快適性																				
1 広さ感・景観 (天井高)															3.0					
2 リフレッシュスペース															3.0					
3 内装計画															3.0					
1.3 維持管理																				
1 維持管理に配慮した設計															3.0					
2 維持管理用機能の確保															3.0					
2 耐用性・信頼性															0.5	3.2	0.52			3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振															0.4	3.0	0.48			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															3.0	3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能															3.0	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数															0.3	3.4	0.33			
1 躯体材料の耐用年数															3.0	0.23				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															3.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															5.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															4.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															4.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔															3.0	0.23				
2.4 信頼性															0.1	3.4	0.19			
1 空調・換気設備															3.0	5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備															3.0	3.0	0.20			
3 電気設備															3.0	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法															3.0	3.0	0.20			
5 通信・情報設備															3.0	3.0	0.20			

3 対応性・更新性					0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			②		0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高5m		-	5.0	0.60			-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率＝0.073		3.0	5.0	0.40			-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-		
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38			-		
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17			-		
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17			-		
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-		
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-		
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出	独自③			-	3.0	0.30		-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④			-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④			-	3.0	0.50		-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											3.5
LR1 エネルギー						-	0.40		-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.71	3.0	5.0	0.20		-	-	5.0
2	自然エネルギー利用			太陽光発電パネルの設置	3.0	4.0	0.10		-	-	4.0
3	設備システムの高効率化			BEI _m =0.69	3.0	4.1	0.50		-	-	4.1
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	-	3.3
1 水資源保護					0.1	3.8	0.15		-	-	3.8
1.1	節水			主要水栓に定量弁、省水型大便器の採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.6	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			生産用途で井水利用	3.0	4.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.4	0.63		-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減	② 独自			-	3.0	0.07		-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20		-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	3.0	0.20		-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05		-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自		OAフロア、可動パーテーションを採用、天井ルーバーに間伐材を採用	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	2.6	0.22		-	-	2.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	2.5	0.68		-	-	
1	消火剤				-	-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50		-	-	
3	冷媒				3.0	2.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率85%	-	3.5	0.33		-	-	3.5
2 地域環境への配慮					0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自			-	3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自		西側住宅街への交通流入抑制する、ルート、乗入の計画	-	5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33		-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自			-	3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自			-	-	-		-	-	
3	悪臭				-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	2.3	0.40		-	-	
1	風害の抑制				-	2.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制				-	3.0	-		-	-	
3	日照阻害の抑制				-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)内浜化成 豊田福受工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:47.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)内浜化成 豊田福受工場

計画上の配慮事項	
総合	生産施設としての、無駄の少ない効率的な計画を基に、「働く人の快適性」や「近隣配慮」にも焦点をあて設計を行った。具体的には休憩・軽運動ができる場所の充実、西側住宅地への交通流入の防止と離隔距離の確保を計画した。また、無機質になりがちな生産施設において、周囲の風趣に敬意を払い、地域産業の梨園に影響の無い樹種選定の上、法基準以上の植栽を行っている。
Q1 室内環境	※工場用途の為対象外
Q2 サービス性能	工場用途の為、明確な動線計画のもとで平面計画を行っている。 ゆとりある階高、荷重、天井高とした。 主要内装仕上げ材の更新必要間隔20年を確保した。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽によって良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	設備システムの高効率化により、BEIm=0.69を達成した。
LR2 資源・マテリアル	可動間仕切り、OAフロアを使用し、部材の再利用可能性向上に寄与した。
LR3 敷地外環境	駐輪場、駐車場を十分に確保し、交通負荷抑制に配慮した。
その他	※特になし